

平成30年度の堅果類の豊凶状況と出沒予測について

1 堅果類の豊凶状況

(1) 樹種ごとの作柄の年次比較

樹種_年	H30	H29	H28	H27	H26*	H25	H24	H23	H22*	H18*	年次比較
ブナ (高標高地)	不	不	凶	不	凶	並	凶	豊	凶	凶	$H23 > H25 \geq H29 = H27 \geq H30 > H22$ $\geq H18 = H24 = H26 = H28$
ミズナラ (高標高地)	並	不	並	不	不	不	並	並	不	不	$H21 > H30 > H28 = H24 \geq H23 \geq H29$ $> H25 \geq H27 \geq H26 \geq H22 \geq H18$
コナラ (低標高地)	並	並	不	不	不	不	並	並	不	不	$H30 = H29 = H24 \geq H23 > H25 = H28 \geq$ $H18 \geq H26 \geq H27 \geq H22$

豊：豊作、並：並作、不：不作、凶：凶作。* H18、H22、H26は、秋にクマが大量出沒した年。

(2) 標高域ごとの作柄の概況

○高標高域（奥山）

- ・ブナ：県全体の作柄は不作であった。嶺北では並作の調査地点も複数見られたが、嶺南には見られなかった。
- ・ミズナラ：県全体の作柄は並作であった。大部分の調査地点が豊作もしくは並作であったが、嶺南西部の調査地2地点はいずれも不作であった。

○低標高域（里山）

- ・コナラ：県全体の作柄は並作であった。山麓部や公園で作柄が良好な地点も見られた。

2 秋以降の出沒予測と対策

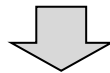
(1) 過去の出沒状況との比較結果

- ・秋の大量出沒年だった平成18年、22年、26年は8月中旬以降にクマの出沒数が増える傾向にあったが、今年はその傾向にない。

(2) 堅果類豊凶調査の結果

- ・ブナの県全体の作柄は不作で、過去に大量出沒が発生した凶作年に比べ良好だが、嶺南では不良。
- ・ミズナラの県全体の作柄は平成21年について良好だが、嶺南西部では不良。

現時点での総合的判断



平成30年の秋は、県全域でのクマ大量出沒の可能性は低いと判断されるが、山地の食物が乏しい嶺南西部を中心にクマの出沒が増加する恐れがある。
また近年、低標高域におけるクマの生息も確認されている。こうしたことから、地域によっては低標高域でのクマの活動が活発になり、平年秋よりも出沒件数が多くなる可能性がある。クマの活動が活発化する9~11月にかけて、出沒情報に注意を払うとともに、集落へクマを引き寄せないよう集落内の栗や柿の管理、生ゴミや農作物残渣の撤去などの対策が必要である。